様式２

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：医学
部会長名：上野易弘
作成者名：上野易弘

概要（2000 字）

【組織・運営】
医学教育部会は、教養原論として「身体の成り立ちと働き」並びに「健康と病気」の２つの講義を、それぞれ医学部教員（保健学科・医学科）によるオムニバス方式で担当した。それぞれに代表者（主担当教員）一名を置き、教科集団構成員の講義内容の調整並びにカリキュラム・シラバス・授業の改善に関する検討は各教員からの意見を集約し、代表者が行なっている点は、従来通りである。

【講義の概略・目標】
講義の題名と内容は従来通りである。
「身体の成り立ちと働き」では、講義の概略・目標を、「人の身体の構造と機能を理解し、各臓器の構造・機能と疾患に於ける病態との関係を理解する」「日常生活を可能とする人体の器官・組織の形態、生体の機能について、場合によっては若干の身近な病気などとも関連づけながら講義する」とし、単なる解剖生理学の講義ではなく、学生自身の身体や健康に結びつけて学べる様に配慮した。
「健康と病気」では、講義の概略・目的を、「感染症・神経疾患・癌・生活習慣病・心の病・小児の疾患」という現代社会で関心が高く、重要な事柄を主題に設定し、病気に関する正しい知識並びに自己と他者の健康への配慮の基礎となる知識を得られる様に設定した。

【自己点検・評価のまとめ】
１）授業の内容は、社会的に重要な疾患について取り上げており、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものと考えられる。且つ、教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したものとなっており、単位の実質化もなされていると考える。

２）「講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。」という面では、教材としてコンピューターによる画像供覧並びにビデオ映写等の映像機器使用の他、講義資料の配附、ホームページへの資料の公開等の工夫を行ったが、受講者多数（約200名）であるため、学生個々に対するきめ細かな指導、少人数・対話討論型授業等の形式による講義は実施不可能であった。多人数教育の弊害を少しでも補う爲、医学科担当分の授業では、TAを活用して出席確認や講義資料配附、講義準備の援助を行った。

３）「自主学習への配慮、基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。」に関しては、講義概略をシラバスに記載し、講義内容は比較的平易となるように心掛けた。各担当教員には適切な教科書、参考書を講義中に紹介してもらう等、自学自習に対する配慮を行なった。これらの点では、学習への配慮は出来たと考える。しかし、基礎学力不足の学生への配慮は組織的には行っていない。一部の基礎学力不足の学生に合わせて講義の水準を下げる事は、大学教育の在り方として本末顛倒と考える。

４）「成績評価基準に従って、成績評価・単位認定が適切に実施されているか」につい

ては、シラバス記載の通り、主として定期試験成績に基づいて行ったので、問題なく行われたと考えている。

５）「教育の成果や効果」については、受講学生が多人数であり、全学生が満足するような講義は困難であると思われた。学生の授業評価内容を総合的にみた場合、意識の高揚には役立ったと考えられた。しかし、医学・医療の先端的内容を含む講義は難しすぎるとする学生の意見もあった事より、最先端研究の成果を学生に平易に解説する爲の更なる工夫が必要と考えられた。

６）「学習相談・助言（例えばオフィスアワーの設定、電子メールの活用、担任制等が考えられる。）が適切に行われているか。」という観点は、従来通り否定的評価となった。即ち、講義内容についての質問にはその都度回答するようにしたが、例年通り頻度は少なく、シラバス等で主担当教員への連絡方法を提示していた爲に電子メールが有効であったものの、受講学生から試験範囲・日程等の質問以外の学習に関する相談はなかった。尚、担任制度に関しては、対象学生数と対応可能な教員数、講義頻度、教員が勤務する楠地区・名谷地区と学生が通う鶴甲地区との物理的距離を考慮すると現実には不可能であり、学生もその様な非効率なことは望まないと推察される。

７）成績評価は主に定期試験で行なったが、各講義ごとに重要な点を明示し、それらを中心に出題するという方式は従来からの方式であった爲、設定した到達目標に大方の学生が達していた。

８）以上、概略的には、学生の反応面では従来からの状況と差異はなかった。

様式２（続き）

<u>項目・観点ごとの記述</u>

<u>基準５　教育内容及び方法</u>

５－１【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ，それに基づいて教育課程が体系的に編成されており，その内容，水準が授与される学位名において適切であること。】

５－１－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

「身体の成り立ちと働き」では、講義の概略・目標を、「人の身体の構造と機能を理解し、各臓器の構造・機能と疾患における病態との関係を理解する」「日常生活を可能とする人体の器官・組織の形態、生体の機能について、場合によっては若干の身近な病気などとも関連づけながら講義する」とし、単なる解剖生理学の講義ではなく、学生が学生生活を送る上で有用となるように、自身の身体や健康に関連づけて学べるように配慮した。

「健康と病気」では、講義の概略・目的を、「感染症・神経疾患・癌・生活習慣病・心の病・小児の疾患」という現代社会で関心が高く重要な事柄を主題に設定し、病気に関する正しい知識並びに自己と他者の健康への配慮の基礎となる知識を得られるように設定して、学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に配慮している。

根拠資料
　シラバス
　各教員の自己点検・評価報告書
　学生授業評価

５－２【教育課程を展開するにふさわしい授業形態，学習指導法等が整備されていること。】

５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

（観点に係る状況）

医学科は前期に「健康と病気」、後期に「身体の成り立ちと働き」を担当、保健学科は前期に「身体の成り立ちと働き」、後期に「健康と病気」を担当した。従って、受講する学生にとっては、講義内容は多少異なるものの同名の講義を前期と後期にわたって受講できるように配慮されている。又、授業の教育目標を達成出来る様にオムニバス方式の講義とした事により、医学・保健学の各分野の専門家教員集団としてほぼ的確な講義が行われたと考える。

根拠資料
・各教員の自己点検・評価報告書
・授業中の配付資料
・学生授業評価

５－２－②：　単位の実質化への配慮がなされているか。

（観点に係る状況）

各教員はシラバスに定められた通りの時間数の講義を行い、原則として休講は行わないので、単位の実質化は果たされている。

根拠資料
　シラバス

５－２－③：　適切なシラバスが作成され，活用されているか。

（観点に係る状況）

はい。講義概略をシラバスに記載し、自己学習にも活用できるシラバスとなるように配慮を行った。

根拠資料
・　シラバス
・　各教員の自己点検・評価報告書

５－２－④：　基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。
（観点に係る状況）
　各教員は分かりやすい授業となるように心掛けているはずであるが、組織的には行なっていない。シラバスで講義内容の概略を提示しているので、自主学習への配慮はなされている。基礎学力不足の学生は本学に入学できないはずであるので、特に配慮はしていない。

根拠資料 　シラバス

５－３【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ，それに照らして，成績評価や単位認定，卒業認定が適切に実施され，有効なものになっていること。】

５－３－②：　成績評価基準が策定され，学生に周知されており，その基準に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されているか。
（観点に係る状況）
　シラバスで提示した成績評価基準に従って適切に実施されている。

根拠資料 ・シラバス ・成績分布状況 ・答案

５－３－③：　成績評価等の客観性，厳格性を担保するための措置が講じられているか。
（観点に係る状況）
　成績評価は定期試験によって行っているため、客観性と厳格性は担保されている。

根拠資料 ・シラバス ・成績分布状況 ・答案

<u>基準６　学習成果</u>
６－１【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして，学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について，学習成果が上がっていること。】

６－１－②：　学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して，学習成果が上がっているか。
（観点に係る状況）
　授業評価によれば、健康な学生生活を送る上で講義内容が有益であったとの回答があることから、学習成果は上がっているものと考えられる。

根拠資料 ・各教員の自己点検・評価報告書 ・学生授業評価

<u>基準７　施設・設備及び学生支援</u>

７－１【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され，有効に活用されていること。】

７－１－④：　自主的学習環境が十分に整備され，効果的に利用されているか。
（観点に係る状況）
　シラバスで講義内容の概略を提示しているので、自主学習への配慮はなされている。

根拠資料 　シラバス

７－２【学生への履修指導が適切に行われていること。また，学習，課外活動，生活や就職，経済面での援助等に関する相談・助言，支援が適切に行われていること。】

７－２－①：　授業科目，専門，専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。
（観点に係る状況）
　オフィスアワーの設定はしているが、医学科、保健学科ともに遠隔地キャンパスであるため、履修指導を使用する学生は殆どないのが実態である。

根拠資料 　授業初日のガイダンスでの説明 　ガイダンス配附資料

７－２－②：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており，学習相談，助言，支援が適切に行われているか。
また，特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり，必要に応じて学習支援が行われているか。
（観点に係る状況）
　オフィスアワーの設定はしているが、医学科・保健学科ともに遠隔地キャンパスであるため使用する学生は殆ど居ないため、担当教員のメールアドレスを公開することにより、学生からの問い合わせを受けられる環境を設けている。

根拠資料 ・シラバス ・教員からの報告